

住民運動との闘う交流をかちとる

住民運動を闘う者として闘う千葉地本 破壊は許せない

二月一八日、三里塚闘争に連帯し、動労千葉の三里塚・ジェット闘争に支援・連帯し共に闘ってきた、関西新空港に反対する住民団体を中心とする『全関西実行委』の闘う仲間達が、バス一台、総勢三八名をもって千葉地本との激励交流に駆けつけ、地本内四支部(新小岩、千葉転、勝浦、館山)との熱気あふれる交流をかちとった。第三二回地本臨大における闘う方針を全体のものとし、千葉地本一四〇〇名組合員・家族と共に勝利の日まで闘い抜くという決意を、お互いに確認し、交流会は成功裡に終了した。こうした全国の闘う仲間の激励に答える意味からも、一四〇〇組合員・家族一丸となって階級的正義を貫き、今こそ、動労全国四万七千組合員の真に進むべき道を指し示し、その最先頭に立つて闘う決意をうち固めようではないか。

全関西実行委員会三八名
新小岩、千葉転、館山、勝浦へ

関西の山本善偉氏(東灘区住民の会)を先頭とする一行は、早朝六時三〇分動力車会館に到着し、持参の駅弁で朝食をとった後、会館防衛のために泊り込んでいた組合員やかけつけた千葉県青年共闘の労働者との交流を行い、一日の交流についての意志統一を行った。そして、夜通しバスに揺られてきた疲れを癒すため一〜二時間の仮眠をとり、それぞれの支部へ向う列車の時間に合せて動力車会館を出発した。

四支部における交流は動労側から、マル生闘争以降三里塚・ジェット闘争を闘うに至る経過での経験談や決意、関西実行委員会の側からは淡路、明石、東灘、姫路等における関西新空港反対の住民運動を闘ってきた苦心談等が出され、「私も四国の機関士の子供に生まれたので動労千葉地本にひと倍の親近感をもっている。その動労千葉の全く正しい闘いを抹殺しようとする策動など住民運動を闘う者として絶対に許せない」という話なども出て、和気あいあいの中にも闘う連帯は一層強められていった。三里塚の話、関西新空港建設問題、首切り反対闘争すら聞えない日本労働運動の現状等々話題は尽きない中で予定時間に迫られ、記念撮影をする(新小岩)などして交流を終わっていった。

また、関西実行委より、心のこもった「檄布」と陣中見舞、さらに多額のカンパがよせられた。なお勝浦、館山では千葉県青年共闘、千葉運転区では大東京実行委員会南部支援共闘の仲間達も交流に参加した。これにこたえて、更に奮闘しよう!



千葉駅頭でピラ配布

各支部での交流を終えた全関西の仲間たちは、一六時より「動労千葉を守れ」を合言葉に、千葉駅頭においてピラまき行動を展開した。足を止め、受け取ったピラを読む人、動労千葉ガンバレ」と声をかけてゆく人等、ここでも動労千葉の闘いを支援する人々の姿があった。われわれは、臨大方針を堅持し、全国の闘う仲間との交流をさらに一層強化し、反動をのりこえ、三里塚・ジェット闘争の勝利をかちとつてゆこう。